

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

○全国を100とした標準化得点で、【国語98.0以上】【数学96.0以上】を目標とする。

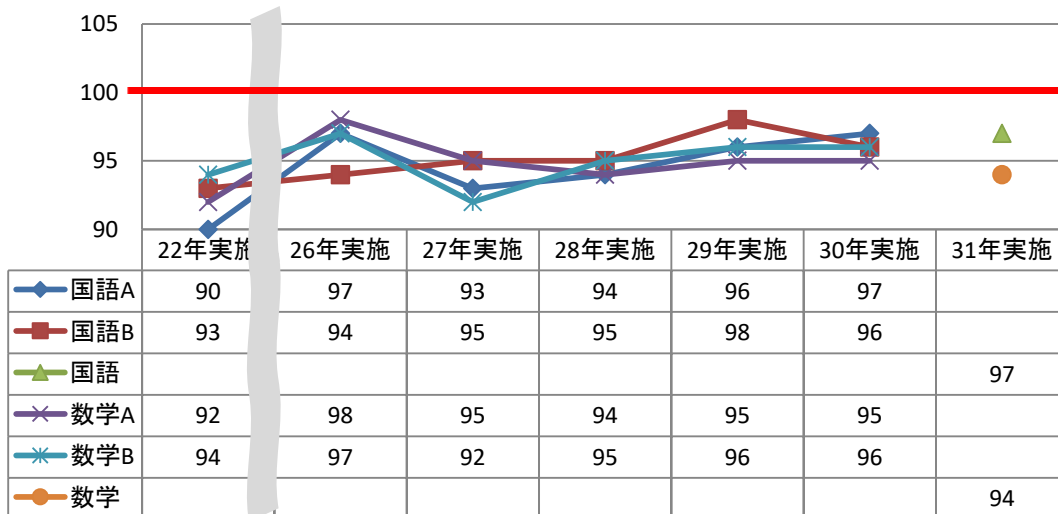
3.指標に向けての取組

- 定期考査前後のチャレンジタイム、フォローアップタイムを行い、基礎・基本の定着を図る。
- 自学ノートと課題プリント(曜日による教科1枚)を徹底し、家庭学習の定着を図る。
- 定期考査において、授業で学習した活用力を問う問題を出題する。
- 書く活動を積極的に取り入れ、見通しを持たせる授業づくりをする。
- 分割授業や個に応じた支援により、下位層の底上げを図る。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	数学
本校	97	94
嘉麻市	97	95
全国	100	100

推移



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

- 定期考査前後のチャレンジタイムやフォローアップタイムの定着が進み、分からないことを友達や先生に質問する生徒が増えてきた。
- 自学ノートや家庭学習の質が向上し、平素の授業や学びに対する意識も高まっている。
- 定期考査において思考力・判断力・表現力を問う問題を出題したり、書く活動を取り入れ見通しを持たせたりする授業づくりをしてきたが、記述問題の無回答率が高く、解答の質も低かった。
- 分割授業や個に応じた支援により、下位層の底上げを図ってきたが、下位層の得点率が低く、上位層の割合が少ない。

6.各学校における今後の取組

- 習熟の程度に応じた指導や発展的な学習、補足的な学習等、学力実態の分析に基づいた個に応じた指導の充実とりわけ習熟度別分割授業を取り入れる。
- 基礎・基本の定着を図るために、定期考査前後のチャレンジタイム、フォローアップタイムを効率的に行う。
- 入試問題の傾向を分析し、活用力を問う授業づくりをし、定期考査でも積極的に出題する。
- 深い学びにつながるように、書く活動や交流活動を積極的に取り入れる。
- 家庭学習においても、知識問題と活用力を問う問題の双方を実施する。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- 各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。
- 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるためのPDCAサイクルについて指導助言を行う。
- 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。
- 「思考力・表現力等を問う」定期考査の実施や授業評価の取組に対する指導助言を行う。
- 校内研修や学校訪問において、思考力を発揮させ最善解を導き出す「かく力」を育成するための指導助言を行う。
- 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導助言を行う。
- 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての指導助言や支援を行う。
- 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。